

メルマガ「人の心に灯をともし」さんより  
(<http://memo.no.jp/00564226.html>)

## 【ありがたいという言葉】

筑波大学名誉教授、村上和雄氏の著書  
『奇跡を呼ぶ100万回の祈り』より…

「ありがたい」という言葉は、日本人ならごく当たり前のように使っている言葉ですが、ほかの国の言葉では同じようなニュアンスに訳すことができない、いわば日本語独特の言葉なのです。例えば、英語なら「サンキュー」が該当しますが、実際にはニュアンスが少し違っています。

日本語の「ありがたい」は漢字では「有り難う」という字になりますが、読んで字のごとく、「有ることが難しい」という意味であり、深い感謝の思いだけでなく、祈りの気持ちに近い感情すら感じられる言葉だと思えます。誰かが、何かをしてくれたことに對して「ありがたい」と言うときには「サンキュー」と同じように使えますが、「ありがたい」ことに、仕事は順調なんです」「いいお天気で、ありがたい」というような表現を英語で訳すのは大変難しい。

英語圏でこうした言い方をすると、「誰に對してサンキューと言っているのか？」と質問されます。

「ありがたい」以外にも、外国語では直訳できない日本語がいくつもあります。

「いただきます」は、料理を作ってくれた人への感謝の言葉としての使われ方をしていますが、実は動植物の命をいただくことに對して「いただきます」という意味があります。「いただきます」には、私たち日本人が自分の命のために、ほかの動植物の命を「いただいている」ことを、食事のたびに意識し、感謝する言葉でもあるのです。

「おかげさま」という言葉も、外国人に言うとうと「ありがたい」と同じように「なんのおかげ？誰のおかげ？」と質問されます。

また、「もったいない」という言葉は、ノベル平和賞を受賞したケニア人のワンガリ・マタイ氏によって、環境保護の合言葉として広めることを提唱され有名になりました。そこには、常に「私」以外の他者へのまなざしや思いやりが透けて見えます。自分が損をする得をする、ということでは

なく、他者が悲しむべき状態に置かれること、つまり、自分と他者との「調和」が損なわれることに對し「もったいない」と述べているのが分かります。

このような考え方や情緒を表現する言葉は、ほかのどの国の言語にも見当たりません。他人だけでなく、相手が自然の草木や言葉を発しないモノであったとしても、悲しませるようなことはしたくないという日本人の気持ちの発露が、こうした言葉を育てたのではないのでしょうか。その感覚は、まるで、そこには見えない「命」が宿っているかのような扱いだと思えます。

日本人は、古来から草木の一本から、火水風土あらゆる万物に神霊が宿り、そうした「ありがたい」大自然の恵みによって生かされていると考えられてきました。キリスト教の考え方は、大自然の上に神が君臨していますが、日本人にとっては「八百万（やおよろずの）神」、つまりあらゆるものが神だったので。

それ故我々は、どこにいても、どんなときでも、あらゆる「命」とのつながりの中で生かされているという幸せや感謝を表す、まさにありがたい「魔法の言葉」も使ってきました。そのことを、今こそ再確認したいと思うのです。（ここまで書籍より）

誰かにほめられたりしたときに、「ありがたいことです」と先に言ってみると、謙虚な言葉が続く。

「ありがたいことです。まわりの人のおかげです」「ありがたいです。たまたまツイていただけなんです」

もし、「私が頑張ったから当然です」などと言われたら、偉そうでイヤなヤツだ、と思われ、その人の運は落ちる。

私の力ではない、周りの人のおかげ、もつと言うなら、目に見えない力のおかげ、というなら、その運はまだ続く。

神さまは傲慢な人より、謙虚な人を好む。これは人も同じ。今生きていることも、たまたまの僥倖（きょうしょう）（きょうこう）。事故にも災厄にも遭わず、なんとか今生きている。これを幸運といわずして何と言おう。「ありがたい」「おかげさま」という言葉。今、生かされていることに感謝したい。（終）

## 結婚式で本当にあつた

心温まる物語（山坂大輔 著）

1カ月後に挙式を控えた新婦のお母様から電話がありました。

「あの、バージンロードのことなんです、エスコート役は直前でも変更可能なのでしようか」

事前のお打合せでは、お父さまの足がご不自由なため、新婦の7つ年上のお兄さまがお父さまの代わりに歩かれることになっていました。

「大丈夫ですが、お兄さまのご都合が悪くなってしまうのでしょうか」

「いったいどうしたのだろうと、おうかがいすると、

「娘には内緒なのですが、実は主人が歩く練習をしているんです」

「娘の結婚式が決まってからというもの、時間ができると『リハビリに連れて行ってくれ』と言うようになって、それも子どもたちには内緒で」

「バージンロードを歩くために、ですか」

私は胸がいつぱいになりました。

「わかりました。ぜひ、お父さまにお願いしたいです。」

支度を終えた新婦がバージンロードの前で待機していると、車椅子のお父さまとお母さま、そしてお兄さまがこられました。

「お兄ちゃん、よろしくね」

新婦が声をかけると、ウエディングドレス姿の妹を見つめながら、お兄さまは黙って首を横に振りました。

「えっ、どういうこと？」

答えの代わりに、お兄さまが少しかがんでお父さまに肩をかきました。

お母さまは既に涙ぐみながら、お父さまに杖を手渡されます。

「え・・・、お父さん？」

「行くぞ」

新婦は瞳をうるませて、お父さまの腕に手をかけました。お父さまがエスコートするのではなく、新婦がお父さまを助けるかのよう支え、歩みを合わせているのが、こちらからもわかります。

お父さまは堂々と前を向かれ、歩みを進めていきました。新郎の背中をぼん、と叩き「頼んだぞ」とお父さまの声が聞こえたような気がしました。

披露宴の半ば、突然司会者がこう切り出したのです。

「本来、ここで祝電を披露させていただくのですが、ここに一通のお手紙をお預かりしておりますので、ご披露させていただきます。差出人は新婦のお父さまです。それでは、代読いたします。」

しのぶへ。

私は静岡の田舎で男兄弟ばかりの中で育ったものだから、女の子をどう育てていいかわからず、母親に任せっきりにしていました。運動会や学芸会もほとんど行けず、仕事ばかりしてきた父親でした。すまないと思っっています。

ただ、父親の務めであると思いつながら、どんな仕事も一生懸命やってきました。

それだけは自信を持っています。

とはいっても、あなたにとってみれば、厳しくて、門限にもうるさくて、うざったい父親だったでしょう。

でも、君がうちの娘に生まれてきてくれたこと、本当にうれしかったんだ。

今まで言ったことなかったけど、本当にありがとう。

今日、あなたが花嫁となって、岡崎家の人間から梅村家の人になっていくこの日に、どうしても何かしたくて、恥をしのんで、お母さんとリハビリをがんばった。

これで今でも何もできなかったことは許してもらえたらうれしいです。

どうぞ、しのぶをよろしくお願いします。

あふれ出る涙をぬぐう新婦。

その横では、新郎がお父さまに向かつて頭を下げています。

会場のあちこちで、鼻をすする音が聞こえてきました。

読み終えたお父さまからの手紙をしまった司会者が、もう一通封筒を取り出しました。「実は、新婦からもお手紙を預かっており、まして、続けてご披露させていただきます」

その手紙にはこんなフレーズがありました。「・・・いつも怒ってばかりで、門限も厳しくて、お父さんの存在が嫌になったこともたくさんありました。でも、今は、厳しく育ててくれたことにとても感謝しています」

先ほどまで堂々とされていたお父さまも、目を真っ赤にしていらつしやいます。

会場は感動に包まれ、温かくやさしい拍手がしばらく鳴りやみませんでした。（終）

2011年、植松努さんの講演会を開催しようという方たちと出会い、翌年6月実現しました。北海道赤平市にある(株)植松電気の専務、植松努さんは、全国各地での講演やモデルロケット教室を通じて、人の可能性を奪う言葉である「どうせ無理」を無くし、夢を諦めない事の大切さを伝える活動をしています。

## 思うは招く

「思う」という行為が、状態を「招く」のです。

いいことを思えば、いいことが。悪いことを思えば、悪いことが。

この言葉は、植松さんが中学生の時にお母さんが教えてくれた、いつも講演で必ず伝えるとても大切にしている言葉だそうです。

※以下、植松電気公式サイトより、

「どうせ無理」という言葉は、人の可能性を奪います。興味を持たなくなり、やる前に諦め、考えなくなってしまう。「だったらこうしてみたら？」という言葉は、人の可能性を広げます。やったことが無いことに挑戦し、あきらめず、より良くを求めようになります。植松電機は自らが思い描き挑戦していくことと、宇宙開発を通して子供達に夢を持つ勇氣と自信を持ってもらうことで、人の可能性が奪われない、より良くを求めよう目指します。

◎昨年9月にUPされた20分の感動の講演動画はすでに77万回も再生されています。

『植松努 TED』で検索。ぜひどうぞ！